



ニセ科学・フェイクニュース あふれる食の世界

世の中には、食にかかわるさまざまなニセ情報が流れています。大半のニセの情報は、売上アップや会員獲得などを目的に意識的に流されています。不確かな情報に惑わされて、健康を害してしまったり、高い買い物をしてしまったら、元も子もありません。今回は、わかりやすく“目からうろこ”の書籍を紹介します。



松永和紀『効かない健康食品 危ない自然・天然』/光文社新書

出版社:光文社 (2017/5/20)

- ・農薬は危ないから、オーガニック食品が安心
- ・トクホや機能性表示食品は国が認めたので効果がある
- ・トランス脂肪酸は食べるプラスチックだから危険
- ・遺伝子組換えは危ない
- ・ブルーベリーで眼が良くなる
- ・ソーセージでがんになる

すべて、「異議あり」。ニセ情報が飛び交う「食」の世界を、科学ジャーナリストが科学的根拠をもとに正しく読み解きます。

著者紹介 松永和紀

毎日新聞社の記者として10年勤めた後、科学ジャーナリストとして活動を開始。2011年に、科学的根拠に基づく食情報を提供する消費者団体「Food Communication Compass」(略称フーコム)を設立。著書『メディア・バイアス—あやしい健康情報とニセ科学』(光文社新書、科学ジャーナリスト賞受賞)、『お母さんのための「食の安全」教室』(女子栄養大学出版部)など



左巻健男『暮らしのなかのニセ科学』/平凡社新書

出版社:平凡社 (2017/6/15)

多くの人が持っている「健康になりたい」「病気を治したい」「きれいになりたい」といった当たり前の願望。そんな思いを利用してつけ入ってくるのがニセ科学。一世を風靡した「マイナスイオン」から、今話題の「水素水」、実はあれにも科学的根拠がなかったのか!と驚くものまで。

参考になる書籍やウェブサイトも掲載されています。

著者紹介 左巻健男

専門は理科教育。東京大学教育学部附属中学校・高等学校教諭、京都工芸繊維大学教授、同志社女子大学教授などを経て、法政大学教職課程センター教授、「RikaTan(理科の探検)」編集長

<その他参考になる書籍>

- 長村洋一『長村教授の正しい添加物講義』(ウェッジ 2015)
- 小島正美『誤解だらけの「危ない話」食品添加物、遺伝子組み換え、BSEから電磁波まで』(エネルギーフォーラム 2008)
- 畠山智香子『ほんとうの「食の安全」を考える ゼロリスクという幻想』(化学同人 2009)
- 食品安全委員会『食品を科学する—意外と知らない食品の安全』(大成出版 2015)